

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070900168		
法人名	医療法人聖山会		
事業所名	グループホーム 合歡の家		
所在地	長野県伊那市荒井3835-1		
自己評価作成日	平成23年3月4日	評価結果市町村受理日	平成23年6月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070900168&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070900168&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら「共に過ごし、学び、支え合う」関係作りを大切にしている。隣接する同法人の伊那神経科病院から定期的な往診と緊急時には同病院内の訪問看護により迅速に必要な処置と主治医の指導が受けられることが出来、利用者様やご家族様にも安心感をもっていただいている。また、同病院内の他職種とも協力体制を築いている。同法人 老人保健施設辛夷園とは、様々な交流を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人経営の病院・介護老人保健施設、別法人経営の宅老所・保育所、市の老人憩いの家や住宅地が隣接しており、利用者が暮らす環境として立地条件に恵まれている。合歡の木・紅白梅の木・ハナミズキなど、豊かな趣ある風景に囲まれた事業所である。「すこやかな日常生活が続けていけるように援助する」ことを理念として掲げ、地域と繋がり、家族等との信頼関係を築き、医療面での安心を得ながら、利用者と一緒に過ごす時間を大切にしている。利用者1人に対して、年1~2回行っている希望に沿って個別外出は利用者の豊かな暮らし作りになっている。和洋折衷の広がりのある趣にあふれた共用空間は利用者がゆったりと居心地よく過ごせる空間となり、楽しい会話を交えて精神の安定を得られる場所作りが出来ている。利用者が、これまで生活の一部として行ってきた各種の行事(小正月・節分・彼岸・盆行事など)を大切に、今、生きていることを楽しみながら、味わいながら日々が送れるよう支援している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示し周知している。また、新入職員にはオリエンテーションを行い周知している。ミーティングや関わりの振り返りの時にも理念に必ず触れ職員間で確認している。	事業所独自の理念を掲げ、基本方針として、利用者へのサービスのあり方、職員としての業務における姿勢を示し、ミーティング等で理念の共有化を図りながら実践に繋げている。理念は施設内に掲示すると共に、たよりに載せて事業所が大切にしていることを表明している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に周辺への散歩や地域のお店に外出している。また、地区の運動会、文化祭に参加させていただいている。	地域の運動会や文化祭に参加したり、地区の祭り(長持ち道中)が来たり、家族会や流しソーメンに地域の方を招待したりして相互のつきあいをしている。隣接する老健や市の老人憩いの家での地域の方との交流もあり、地域の方からお裾分けを頂いたりして、地域と共に暮らしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区行事に参加させていただく際、認知症という病気の説明させていただき、理解を求めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で行なわれているサービスの内容、各係りの活動を報告している。また、話し合いの中で気づいたことや意見は、サービスの向上に活かしていけるように努めている。	行政・地域・利用者・家族の参加の下、22年度は会議を3回開催している。評価の件・各係の報告など事業所の現状の報告があり、出席委員からも意見等があり、双方向的な議事運営となっている。会議に出席したり、欠席者には回覧もあり、職員への周知は充分に出来ている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して実情や、支援内容を伝えている。	運営推進会議や市主催の介護支援専門員会議等を通じ、事業所の現状理解や地域ニーズの把握をして行政との連携を図っている。行政の担当者が異動になったり、介護相談員の訪問が少なかったりして若干の支障はあるが、行政との協力関係を密にするよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホーム合歡の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修には参加しているが、諸事情により今年は研修参加が難しかった。今後は、積極的に参加して研鑽していきたい。また、生命に危険が無い限り拘束ケアは行っていない。	マニュアル整備や22年度の研修の機会にはなかったが、拘束することなく、抑圧感のない暮らしを支援していくことは事業所の基本姿勢として職員の共有認識になっている。玄関の施錠はなく、離園する利用者には気持ちの落ち着くまで付き合ったり、見守りや連携プレーで拘束しないケアに努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修会には毎年職員が交代で参加しているが、今年は諸事情で参加が難しかった。今後積極的に参加して研鑽に努めていきたい。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修を受けているが、全職員に説明がいきわたっていないため理解は十分ではない。その為、支援が必要な時には同法人の支援相談員に相談や助言をもらう。今後、他職員も研修に参加したり部署内で勉強していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、入居から退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその想いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。また、日々ミーティングを行ない、意見が特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。	家族等の意見を聞くには、その前提として家族等と接触する機会を多くし、利用者の様子を定期的に報告して信頼関係を築くことが大切になる。年2回の家族会、月の支払いは現金払いにして面会の機会を多くし、年4回のたよりの発行、往診時の心身の状態の報告など良好なコミュニケーションを保つようにして意見等を聞いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人に目標管理設定手法を導入し、年1回の面接時に直接聞き取りを行なっている。	ミーティングや職員会議の場で意見等を言える機会を設けている。目標管理設定手法は職員の努力目標を決めてその進捗を評価しながら、職員の事業所への思いや意見を提案できる機会としている。法人内研修を積極的に企画し、外部研修への参加を促すなど、職員のやりがいやアイデアを引き出す支援もしている。	

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>目標管理手法を通して行なっている。</p>		
13		<p><b>職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>目標面接を通して実行している。内部研修は、法人内で月2回程度行なわれており参加を促している。また外部研修は、各自に必要なと思われるものは積極的参加を促している。</p>		
14		<p><b>同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設との職員交流を行ってきたが、今年度は諸事情により行っていない。来年度は実施していきたい。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者様が困っていること、不安なこと、要望等、ご本人の意思をしっかりと聴き、利用者様が安心して生活を送れるように信頼関係作りに努めている。</p>		
16		<p><b>初期に築く家族等との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様が困っていること、不安に思っていることに耳を傾けながら、今までの経緯や最近の様子を伺うなど関係作りに努めている。</p>		
17		<p><b>初期対応の見極めと支援</b>                      サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者様とご家族様のニーズを把握し、事業所として出来る対応を考え、他職種とも連携し、必要なサービス利用を受けていただけるよう対応に努めている。</p>		

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしをする者として、お互いに助け合いながら、穏やかに生活ができるように関係作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはその都度、利用者様の健康状態、ご本人の話されたことや思いなどを伝えている。また、ご家族のご本人への思いや要望をうかがい、ご家族と施設が協力してご本人を支えていくための協力関係を築いていくことに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人との文通や電話での交流、ご家族に承諾を得た面会等、ご本人が築いてきた関係性の継続を支援していくように努めている。	本人の希望する美容院の方に来てもらったり、知人・友人との文通や電話での交流を支援したりして、これまでの関係が途切れないよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係を把握し、孤立せず共同生活が送れるように、職員間で情報を共有し、ご家族とも相談する機会を設け、支え合えるように支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院し退居するケースがほとんどであるため、関係性の長期・継続は難しい。病室へお見舞いに伺わせていただいている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用したり、日々の関わりや会話の中から、ご本人にどんな思いがあるのか、どんな暮らしを望んでいるのかを把握するよう努めている。	センター方式を活用したフェイスシートにより利用者のこれまでの思いや希望、得意分野などを把握している。利用者の性格が日々の暮らしを支援するのに重要なポイントになるので、会話の中や家族から十分に情報を得て対応している。「ゆっくりと話を聞いてお年寄りの理解を深める」という基本方針の実践に努めている。	

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様からは、日々の関わりや会話の中で把握に努めている。また、日々の様子をご家族にお話する際、入居前はどうであったのか教えていただいている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホーム内での一日の過ごされ方や、いつもと違う言動は職員間で情報共有している。ご本人の持っている力の現状を把握することに努め、ご本人のお気持ちを大切に考えている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用しながらご本人の思いや課題分析を行なっている。ご家族には、日頃の思いを聴き、反映させていくように努めている。また状態の変化がある毎にミーティングを開き、アセスメントを含め意見交換を行なっている。	課題分析はセンター方式を活用し、利用者の担当者と計画作成担当者が中心となってカンファレンスを経て介護計画を作成している。介護記録(生活全般)・施設介護経過(ケアプラン中心と看護中心)の3冊の綴りがあり、この記録を基に心身の変化に応じた介護計画の見直し・評価が行われている。	記録の煩雑さが見受けられるので、整理されることを期待したい。又、月に1度の実施状況の把握や介護目標の期間を設定して、モニタリング・評価・再アセスメントの流れを確立することを望みます。利用者の担当者と計画作成担当者との計画立案に関しての相違が見られるので、原点に戻って計画作りの再構築をされることを望みます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の心身状態の変化がみられた時は、隣接する同法人病院の訪問看護師に相談し、医師より迅速かつ必要な治療が受けられるよう協力体制を築いている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員の方と話す場を設けた。		

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様と家族様に主治医を選んでいただく。受診前には、必ずミーティングを開き、状態はどうか、前回と変わった様子がないか個人ノートに記載し、主治医に報告している。</p>	<p>利用者と家族の希望により、かかりつけ医を決めている。隣接する同法人の病院の協力を得られて、週1回の往診があり、健康状態の管理・相談は行き届いている。歯科医の協力もある。看護記録の綴りもあり、医師や看護師との連携も密に行われ、医療面での対応は充分に行われている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>隣接している同法人病院の訪問看護師に報告、相談は常に行ない必要な医療が迅速に受けられるように支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行なっている。</p>	<p>入院後は、心身状態の把握に努めてる。また、医療関係者との情報交換を行なっている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時より、必要に応じてご家族と話し合いを行なっている。事業所でどこまで出来るのか、ご家族の協力はどこまで得られるのか、確認していくようにしている。</p>	<p>重度化や終末期対応の事業所の基本姿勢は明確であり、家族等は利用時には十分な説明を受けている。現在、ターミナル対応をしている方がいるが、医療依存度が少なく、自然の状態で介護し、ゆったりとした日々を当たり前の暮らしとして過ごしている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>隣接している同法人病院の医師、看護師に常時報告、指導を受けている。今後、全職員、応急手当や初期対応等の訓練を行ない、実践力を身に付けていけるように努めていきたい。</p>		
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を定期的実施できるよう計画を立てていきたい。また、地域の方へは、運営推進会議を通して「協定書」のご理解をいただけるよう話し合いの場をもっている。</p>	<p>夜間想定通報・避難誘導・消火訓練を年1回行っている。避難経路の確認、自動通報装置やスプリンクラーの設置、地域との協力応援体制の協定や隣接事業所の応援体制など防災への備えは整っている。又、今般の東北関東大震災を教訓に事業所を避難場所とすることも検討されている。</p>	<p>災害への対応は全職員が身に付けなければいけない課題であるので、年2回は全職員参加による訓練を実施されることを期待したい。災害への認識を高めたり、災害対応への不安をなくす意味でも、頻度よくイメージトレーニングを行うことを望みます。</p>

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の出来ないことを代行し、ご本人の言動を否定せず、その時の思いやお気持ちを考えながら言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いについての説明や法人全体で行う接遇研修、契約書に明記してある「利用者の権利」などにより、尊厳や誇りに配慮することの共有認識は出来ている。利用者の気持ちを大切に、自己決定しやすい言葉かけを心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる利用者様は、必ずご本人に確認をする。ご自分での意思表示が難しい利用者様へは、ご本人の表情や発症前の生活歴、大切にされてきたこと、性格等から、想像して声かけと働きかけに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者様の気持ちや想いを聴きご本人の希望を尊重しながら、支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、ご本人の希望に沿って地域の美容室に来居していただき散髪をするなど、身だしなみには気をつけている。季節、昼夜の衣服など利用者様と確認しながら対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や希望される献立は食事に取り入れている。ご本人に意思確認を行い、危険のない範囲で、職員と一緒に食事の準備や後片付けを行なっている。	調理の下準備から食器拭きまで、利用者の心身の状況により、出来る範囲で職員と一緒にしている。季節感のある食となるよう、よもぎ餅・流しソーメン・焼き芋・パレンティンチョコなども取り入れている。畑で採れた物やお裾分けの野菜を使って、献立は職員が作り、治療上必要があれば隣接事業所の栄養士のアドバイスを得ている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援	1日3食の食事と午前午後のお茶の時間で摂取できている。水分摂取には、特に気をつけている。水分摂取が充分でないときは、水分補給食品を活用している。		

外部評価結果(グループホーム合歡の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>定期的な義歯洗浄を行なっている。ブラッシングは、細部は介助する。口腔内の状態によっては、協力歯科医院の往診にて指導をいただいている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行なっている</p>	<p>利用者様の羞恥心に配慮しながら、トイレでの排泄を大切にしている。</p>	<p>おむつ、リハビリパンツ、尿取りパットなどを使用しているが、トイレを利用した排泄を介護の基本として支援している。座位の保てない方もおり、排泄の自立に向けての支援に苦慮することもある。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取をしていただいたり、ゆっくりとトイレに座っていただき腹部マッサージをするなど個々の対応をこころがけている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>基本的な流れはあるが、利用者様の体調や気分等配慮している。お一人の入浴時間は体調に配慮しながら時間に追われることなく入浴していただくよう努めている。</p>	<p>1人週3回、1日3～4人、午後、毎日入浴がある。希望により何時でも入浴できる体制であるが、サイクルは決まってきたり。重度者の方はシャワー浴となっている。ゆず湯や菖蒲湯などの懐かしい楽しみも取り入れている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>安心感をもって休まれるように、休息前就寝前の言葉かけなどの対応には気をつけている。環境面では、必要のない明かりは消すようにしている。午睡時の職員の必要のない大きな私語には常に気を配っていききたい。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>努めている。処方変更後の観察点はどのような点か確認している。服薬時は間違えないように十分に気をつけている。</p>		

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人からの言動、ご家族から得た情報を活かして支援したり季節の行事も取り入れている。また、利用者様から教えていただいた地域の風習等も取り入れている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出の機会を設け行きたい場所へ外出を行ってきた。今後も積極的に個別外出を取りいれていきたい。	日常的には事業所周辺の散歩や花見、隣接事業所への教室参加、買い物や食堂利用、足湯利用なども行い、ストレス解消や五感の刺激を受けている。全員参加を目標にしてイチゴやブドウ狩り、花見や赤そば見学をして戸外に出る楽しみを味わっている。年1～2回利用者の希望に沿って個別の外出も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持の支援は大切に思っているが、支援につながっていない。必要性は充分に感じている。利用者様のご希望する品物、生活のうえでの消耗品の購入はご家族に連絡しご本人と一緒に、または職員が代行して購入させていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご希望に沿って支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな音には注意を払っている。居住空間の清潔面にも気をつけている。心地よい空間、環境作りには工夫しているが、さらに努力をしていく必要もある。	居間兼食堂は利用者の寛ぎの場所であり、多くの時間を過ごしている。高い天井・露出した木製の梁・段上がりの畳の間・プライベートな時間を過ごせる離れた談話コーナーとゆったりと落ち着いた空間になっている。壁には絵画が、畳の間には人形など飾られ、創始者の趣味の良さが伺える。台所はオール電化で清潔感が漂っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内には3ヶ所のホールがある。思い思いに過ごせるように工夫している。		

外部評価結果(グループホーム合歓の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様自身が使いなじんだ居室環境ではないが、ご本人の意向確認の上、一緒に居室掃除やお花を飾るなど心地よい空間になるように工夫している。	収納棚と洗面台以外は全て利用者と家族により、馴染みの物を配置している。和室・洋室・和洋折衷室の3種類あり、思い思いの居室作りをしている。居室のドアにはスタンドグラスが収まっており、居室を取り囲む周辺の木のぬくもりと良く調和されている。出窓から庭の植物が眺められ、季節の移り変わりを楽しめるようになっていたが、日中の居室利用は少ないと伺った。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の場所として送れるようしており、支援が先回りしないように努めている。		